

2011(平成23)年度 法学既修者入学試験問題

憲 法

(90分, 総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は, 表紙をふくめて4ページで, 問題は1問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し, 解答の末尾には, 「以上」と明記すること。また, 用紙が不足した場合には, 追加の用紙を配布するので, 挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として, 白紙を1枚配布する。ただし, 下書き用紙の提出は認めないので, 必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号, 氏名記入は, 監督者の指示によること。また, 「管理番号」欄は, 大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には, 応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお, 試験中の発病等やむを得ない場合には, 挙手により監督者に知らせ, その指示に従うこと。
7. 試験終了後は, 監督者の指示があるまで, 各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は, 各自で持ち帰ること。

次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

X1は、衆議院議員A（父）と参議院議員B（母）の夫婦の間に生まれた長女であり、大学を卒業して民間企業に就職した。弟Cは現在大学1年生である。X1の父方の祖父Dは元外務大臣、母方の祖父Eは元内閣総理大臣であり、AとBの家庭は「政治家一家の家庭」として有名であった。そのため、AとBの後継者として次に誰が国会議員になるのか、しばしば週刊誌等でとりあげられていた。

X1は1年前に職場の同僚X2と婚姻した。その後、X1とX2は、X2が中華人民共和国・上海にある現地法人に転勤になったため、上海に移り住んだ。しかし、X1とX2の仲はうまくいかず、X1は単身で帰国し、離婚した。

X1の帰国と離婚という情報を密かに入手した週刊誌『週刊新世界』の記者Pは、これを記事にまとめ（以下、「本件記事」という。）、本件記事は201X年9月20日発売の『週刊新世界』（以下、「本件雑誌」という。）に掲載されることになっていた。本件記事には、「独占スクープ！ AB夫妻の長女、わずか1年で結婚破綻」と題して、X1とX2のなれそめや上海での暮らしぶりとともに、「Bの猛反対を押し切って結婚した新妻であったが、上海から密かに帰国した」といった内容が、約3頁にわたって書かれていた。

掲載前にPがX1に書面をもって取材を申し入れたため、X1とX2は本件記事が掲載される予定であることを知るに至った。そこで、X1とX2は、本件記事はプライバシーの権利を侵害すると主張して、民事保全法の仮処分の手続により、『週刊新世界』を出版する出版社Yが本件雑誌の販売をすることの差止めを裁判所に求めた。

〔設問〕

裁判所がYに本件雑誌の販売をすることの差止めを命ずることは憲法に違反するか。あなたと異なる見解に留意しながら、詳しく論じなさい。

余白

余白